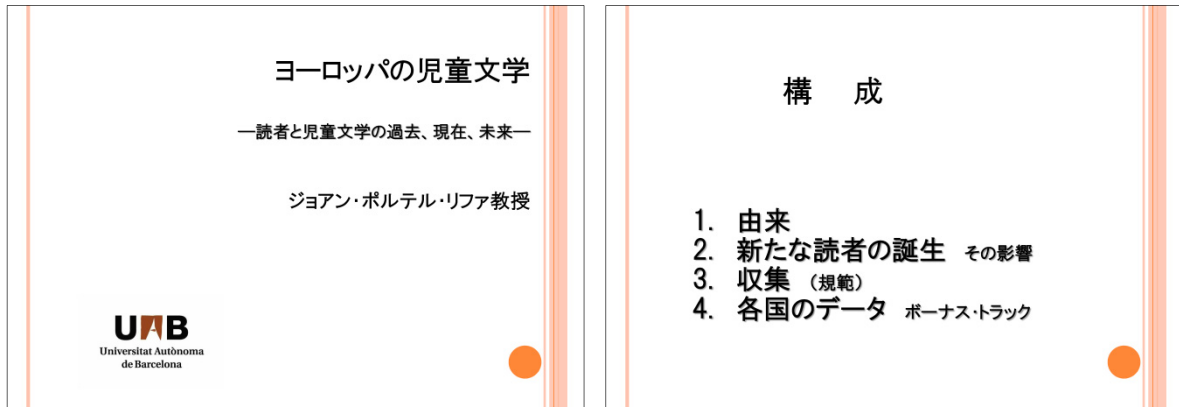


(翻訳) ヨーロッパの児童文学

読者と児童文学の過去、現在、未来に関する序説

佐藤 美智代 (中央大学人文研究所客員研究員)



皆さん、こんにちは、私の名前は、Joan Portell Rifa で、言語学と文学を研究しています。ご清聴ありがとうございます。親愛なる会場の皆さん。初めに、中村先生の御助力による二年前の研究発表以来、再び発表の場を頂けたことをお礼申し上げます。

ここにおられる皆さんにも同じく感謝の気もちと、本日のテーマが皆さんの期待に沿うものであることを願っています。後ほどどんな質問や疑問にもお答えいたします。

引き続きお話する内容は、四つに分かれています。一つ目は、神話と伝説の由来から今日の作品までざっと簡単に児童文学史の紹介をします。二つ目に、新たな読み手の登場について、つまりそれぞれの問題を抱えた読者（社会の中で）が児童文学からどんな力を借りるべきかについて述べます。三つ目は、世界的な選書基準から個人蔵書の「収集のデザインとチョイス」に関して守るべきことを二つ紹介します。

最後に、日本、フランス、スペイン、カタルーニャの読書地図と比較データをお見せしましょう。今から始まる話の最終ゴール—「読者と児童文学の未来像」—を描くのに役立つデータです。用意はよろしいですか？

由来。始まりは、カオス（混沌）でした。人類は小さな群れに分かれて生き延びるために戦い、知識の伝達という形で、徐々に文化が根を張っていきます。

ユッタ・バウアーによる小さな「色の女王」という本です。このすばらしい絵本は、挿絵を通して私たちの世界にあふれる無秩序を描きだしています。

しかし、焚火のまわりでのお話は、人類が言葉を用いて、混沌を支配し秩序立てていくことを物語っています。言葉は、棍棒や斧よりもずっと役に立ち、我々が住んでいた世界を理解するのに必要な道具となっています。

文化あるいは、一連のシンボルや価値、伝承や世襲財産や個々の社会の暮らしを形成して



いた規範といったもの、すべては言葉によって創られました。欧州では、古代ギリシャ思想を規範づけたのが言葉であり、日本では千年以上の神道の文化伝承でも同様でした。

カオスの中から、人間は言葉によって秩序を生み出した

日本 ヨーロッパ

現実の奥深くを知り、解釈し、説明する努力の過程で文化が創造された

日本 ヨーロッパ

この文化は、主に昔話、神話、伝説を通して伝えられました。昔話は短い語りで、散文調、虚構またはリアルな特徴を持っています。神話は、摩訶不思議なできごとを神様、怪物、超人間的な英雄などありえない主人公を用いて説明しています。

伝説とは、カタルーニャのサン・ジョルディのように、リアルな要素や架空の要素を加工して、或る民族や共同体に象徴的なものを称賛する物語です。

この伝説は、その昔ある国に獰猛な龍がいて、住民たちは恐れおののいていたことを説明しています。王様は、毎日一人ずつ、龍の飢えを満たす生贄として住民を捧げることを決めました。くじで生贄を決めるのですが、或る日運の悪いことに、お姫様があたりました。どうすることもできず、龍に食べられるその瞬間、サン・ジョルディという勇敢な騎士が現れて龍を殺してお姫様を救ったのです。龍が流した血から赤いバラの花の木が誕生したので、毎年4月23日にはサン・ジョルディのお祭りの日を今でも変わらず祝います。恋人たちは愛の証しの赤いバラをパートナーに贈ります。

昔話が文化を形成するメンバーの一人一人を集めてひとまとめにする様に、また神話がおのおのの祭りの儀式を描き出しては或る一つの括りに統合するように、この伝説もまた我々の文化の価値を伝えています。

お話と神話と伝説

昔話 短いお話、散文調、架空のもの あるいは史実

神話 偉大な人物たち（神々、怪物、英雄）と不可思議なできごとを説明するお話

伝説 共同体の特性を賞賛するため、現実的要素や架空の要素を加えた物語

サン ジョルディの肖像
マヨルカ司教美術館

騎士と竜が姫をめぐってめぐって闘う伝説

団体に所属する個人が、文化によって統合されてゆく物語:
 ● 伝説 価値の交換をする
 ● 昔話 ある文化の中の一員になりきる
 ● 神話 祭りの儀式や権力によって団体に統合される



神話と伝説の境界線は、常にはっきりしていません。なぜでしょうか？桃太郎の物語は神話、或いは伝説でしょうか？確実なのは、紙芝居のおかげで日本の文化は、ユニークで独特な口述伝承を誇っているということです。

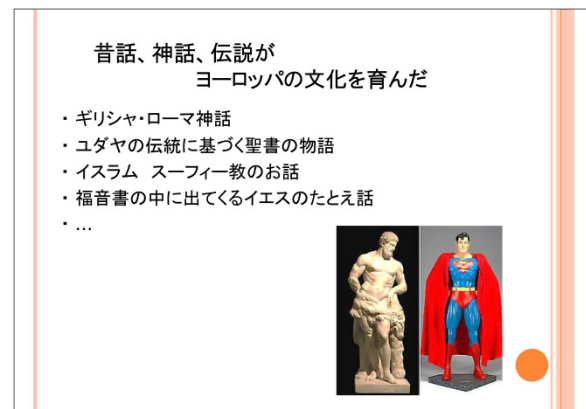
昔話の中でも、寓話は明らかに説教臭いのが特徴です。こういうお話は、ほとんどの登場人物が動物です。その獣に代弁された登場人物や行為のおかげで、どの民族にも拡大解釈できる「或る種の価値基準」が浮き彫りにされます。我々の文化の代表的作者の一人が、イソップです。2700 年前古代ギリシャに生まれた、彼の寓話の中で最も有名なのがウサギと亀の話です。競争したらどちらが勝つか賭けました。忍耐とたゆまぬ努力、二つの美德のたとえ話です。

昔話、神話、伝説はその初期からヨーロッパ文化を豊かにしてきました。ゼウスのような神々と共にギリシャラテン神話といった多彩な刺激を受けてきた文化。ユダヤ伝説の聖書物語、の中のモーゼの歴史物語。たとえば彼と民のエジプトからの逃避行。イスラムのスーフィー教のお話、主にナスレディンといわれる登場人物。

ここで寄り道として、物知りで風変わりな「ナスレディン・ホジャ」老人の短いお話を紹介しましょう。ある日ナスレディンが、村の広場の真ん中で何かを探していました。通りかかった隣人が彼に「何を探してるんですか？」と尋ねると「わしの指輪をなくしたんじゃない」と答えたので隣人は、「探すのを手伝いましょう」、そういうと、しゃがんで指輪を探しはじめました。かなり探しても指輪は見つかりませんでした。「どこでなくしたんですか」と尋ねると、「わしの家でなくしたんじゃない」と老人が答えました。「なぜここで探してたんですか？」すると「わしの家は真っ暗だが、ここは明るい」。

我々の伝承は、イエスの福音書からも影響を受け、少し最近では北欧やスラブの伝承からも影響を受けています。どんな？なぜ？どこに違いがあるのでしょうか。架空の人物と古代ギリシャの筋骨たくましいヘラクレスとの間に差は？12の困難な試練を乗り越えた英雄とスーパーマンとの違いはどこでしょうか？

これらの口から耳へと伝えられた物語は、風が運んで終わり。読める人がいないからでした。カトリック教会は、信者が「神のみことば」を目で追えるよう、教会の壁に聖書の物語を描きました。修道院の柱廊に動物や人物を彫ったり、自然界のツタや葉を美しい色と線と



で写本の装飾に使いました。あるいは細密画によって聖櫃を飾ります。

全能の神 PANTOCRATOR

教会は、聖書のお話を壁画や彫刻によって普及させた。

自然界に及ぶ神の力と秩序を美しい線と面で描いた。

全ての人々が聖書を読める(理解する)ように。

鎌倉将軍時代 11-12世紀



子供向けの初の教育書

ラモン・リュイ (1232-1316)

<子どものための教義>
自分の息子と、8~12歳の子どもを対象に宗教教育をねらった本
(カタルーニャ語)

<獣の本>
どちらが動物界の王になるべきかを巡って肉食動物と草食動物が議論するお話
(カタルーニャ語)



最も若い読み手にふさわしくテキストを入念に仕上げる必要性を考えた最初の作家は、カタルーニャ人のラモン・リュイでした。「子どものための教義」と「獣の本」の二冊は、西洋史における最初の児童向けの本とみなされています。よきキリスト教徒を教育するのがねらいで、ラモン・リュイはその息子のために書きました。

15世紀中頃にヨハネス・グーテンベルグが発明した人類史で最も重要な道具の一つ、印刷機。これによって出版文化は安定し、普及し広がっていったのです。

やがて1498年には、バルセロナに近いモンセラット修道院に出版部門が誕生しました。当時では世界最初の出版所であり、なおかつ現在も出版を続けています。その主な働きは、グーテンベルグの印刷機と同じく聖書のことばの普及でした。

印刷術の誕生
ことばが紙に定着する

ヨハネス・グーテンベルグ (1398-1468)
聖書 (約1450年頃)

足利将軍時代
1336-1573



グーテンベルグの聖書

印刷技術の普及

世界最古の出版社 *Publicacions de l'Abadia de Montserrat*
が創業を開始(1498) 現在も出版を続けている。



カタルーニャのモンセラット修道院

ある種の作家は、本の持つ教育的な力を見抜きました。1650年、コメニウスは、ラテン語学習用の美しいマニュアルを丁寧に作り、ドイツ語やラテン語の言葉がイラストに助けられ、世界で初めての文章とイラストが結合した子ども向けの本になりました。

18世紀の英国産業革命と同時に、また英国以外のヨーロッパの国々では19世紀にかけて新たな時代が出現します。それは、子ども時代です。最も柔らかな子ども時代から「子どもの教育」を始める必要を感じたのはブルジョワでした。彼らは、子ども時代から成人してもビジネスが続けられる後継ぎの育成を望んでいました。要するに、中世の徒弟制からタ

目に見える世界絵図 コメニウス著 (1592-1670)

○ 世界最初の図柄付きの本 1650年刊行



ーゲットを「子ども（低年齢の生徒）」に置き換えた教育と、それに資する教材を必要としていました。しかし、この需要は少数派に限られており、これらの幼い生徒の数は、人口の一握りほどでした。労働者の子どもの大半は、毎日工場で働いていましたし、10～12歳になった子どもたちは、一日16時間労働をしていたのです。

当時、民間伝承の収集が始まると、どの国も重要な文化や口承文芸を保護しようとなりました。それは産業革命と連動する文化の革命を目の前にしていたからです。フランスでは、シャルル・ペローが最も有名で、1628年パリに生まれて、1703年に死亡しました。傑出していた作品は「鏡」です。ここにいるどなたか、「鏡」を読まれましたか？赤ずきん、ロシアのような文化にも見当たる昔話、グリム兄弟により、ドイツ文化の中から生まれた昔話にも見当たるもの。

ドイツでは、グリム兄弟が断然有名です。ヤコブとヴィルヘルムの二人です。その作品は、今や全世界的であり19世紀にかけて広まりました。どれか作品をご存知ですか？ヘンゼルとグレーテルは、森の中に捨てられた二人の姉弟のお話で、悪い魔女に出会って、その小さなチョコレートの家に住むことになったのです。グリム兄弟は、民間伝承のゲルマン風の話をも、ドイツの少年少女にとって読みやすい語彙とストーリーのお話に書き換えてくれたのです。

スペインでは、Samaniegoの教訓的寓話か、Saturnino Calleja社から出版された異なる版の昔話が有名です。


新たな時代が誕生
子ども時代



少女織物工 ジョアン・プラネラ 1850-1910.
写真家バチエロ 作品 1896.
ブルジョアの子どもが荒地に撮られた風景でポーズを取っている

昔話の収集家の出現

フランス ペロー 1628-1703



パウ エストラダ 絵 赤ずきん

ドイツ:
○グリム兄弟
○ヤコブ (1785-1863) ヴィルヘルム Grimm
Grimm (1786-1859)



クリスティーナ・ロサントス 絵 - "Ton i Guida"
(カタルーニャ語) ヘンゼル とグレーテル

スペイン:
○1750. Samaniego. 教訓的寓話
1874. Caballero. 絵による教育
1876. Saturnino Calleja出版社. 1884以来 刊行.
○子供向けの昔話の本



ついにカタルーニャ特有の言語で書かれたテキストが出版されます。19世紀末から20世紀の初めにかけて異なる作者が昔話の収集を手がけ、子どもの読み物にふさわしくしたのです。マジョルカ島のJordí des Racó、カタルーニャのJacint VerdaguerとJoan Amadesが有名です。

ところが、子どもは、本当に子ども向けに書かれたテキストを要求してきます。それで、

その要望に応える本が出現し始めます。大抵、教育か教訓的な目的がねらいで書かれています。代表的な作品は、ハインリッヒ・ホフマン作「もじゃもじゃペーター」。

カタルーニヤ:

- 1896. Jordi des Racó
- 昔ばなしを収集した作家 Verdaguer,(ヴェルダゲール)

Amades, Josep Carner, Enric Valor...



ラモン・カザス画 ハシント・ヴェルダゲ
カタルーニヤの昔話 ジョアン・アマデス

新たな児童文学の誕生
子ども向けの物語

子どもの読書育成に対する答えとして生まれた児童文学。

- ハインリッヒ・ホフマン作「もじゃもじゃペーター」(1845)



徐々に作家が増えていきます。世界の文学に最も影響を与えたハンス・クリスチャン・アンデルセン。このデンマーク人作家は、人物像やストーリー構築にたけていて難しいテーマにも挑戦しました。報われない愛の「人魚姫」。仲間はずれを描く物語を書きました。何か彼の作品をご存知ですか？例えば、「醜いアヒルの子」ですが、スペインの白黒テレビ番組「水滸伝」の冒頭、中国の諺が出てきます。“蛇に角がないからと見下してはならない。やがて龍に変わるかもしれない”。との格言は、当時の私に「醜いアヒルの子」を連想させました。

作家たち

- アンデルセン (デンマーク,1805-1875)



Francesco Capdevila(マックス) 絵 みにくいアヒルの子

子ども時代は、つかのまの読み物もほしがります。カタルーニヤ語の Patufet。カステイリャ語の TBO という雑誌を見ればわかるでしょう。

似たことが、雑誌「赤い鳥」鈴木三重吉作を見るとわかります。子ども向け文学の作家による、この分野では初めての子ども向け雑誌でした。

雑誌

1904. Revista Patufet (カタルーニャ語)



1904. 雑誌TBO 1917. TBO (カステイリャ語)

鈴木 三重吉 赤い鳥

- Suzuki Miekichi (鈴木三重吉, 1882-1936)
- 赤い鳥 ([Akai tori](#) / Pájaro rojo) el 1918



雑誌発刊と同時に、本当の国民的児童文学あるいは世界的児童文学というものが現れます。まずフランスの、ジャン・ド・ブリュノフ作・絵、1931年発行「象のババール」。

20世紀後半、児童文学もすでに成熟してきます。さらに大きな飛躍をとげて、イラスト・アルバムという形式の絵本が登場します。この文学ジャンルは、文字とイラストとが互いに

盛り立てる関係によって成熟し、絵本そのものがアルバムという堅固な支えを獲得しました。児童文学史上、画期的なのはモーリス・センダック作・絵「かいじゅうたちのいるところ」です。

日本の絵本です。

現在多くの本が、世界中の子どもの手にとられ、読まれた結果、「ユニヴァーサルな指標」として次の本が存在します。この二冊は、ご存知ですか？ディック・ブルーナ作「ミッフィー」とレイモンド・ブリッグズ作「スノーマン」。

児童文学の指標となる作品

○ジャン・ド・ブリュノフ作、「象のババール」1931年



児童文学の成熟

モーリス・センダック作 かいじゅうたちのいるところ 1963年



TEXTO E ILUSTRACIONES DE MAURICE SENDAK

絵本の正典: 日本では欠かせない絵本



知っていますか？



さて、この二冊はいかがでしょうか。トミー・ウンゲラー作「すてきなさんにんぐみ」、レオ・レオーニ作「スイミー」。

そしてトーベ・ヤンソン作「ムーミン」です。これらの人物は、本当に世界のどこでも通用する児童文学の「指標」になっています。ある意味では、世界のあらゆる学校や図書館の「読書の素材」とすべき作品で、児童文学の普遍的な指標とみなされてもよいのではないのでしょうか。

この二冊はどうですか？

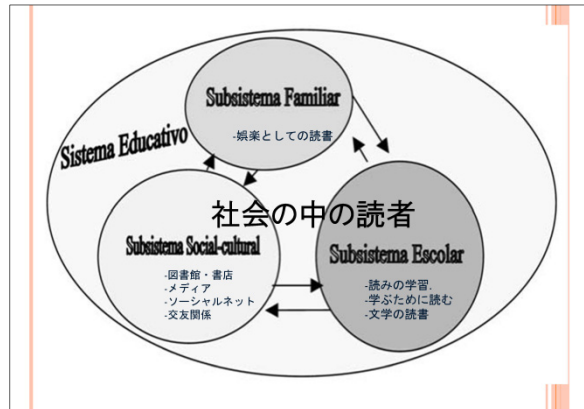


こちらは？



2. 新しい読者の誕生

その影響



21世紀から、新たな読者が誕生しています。20世紀じゅう、行われていた「読者の最も身近な家族や社会が提供してくれる読書」より、はるか向こうまで行けるし、読者固有の「本のカタログ」を創る道具を持っています。読者が受ける影響は、多大かつ多様です。

ソーシャル・リーダー（社会の中の読者）は、三つの役割を持つサブシステムから成る「教育システム」の中心に存在しています。一つ目が家族サブシステム。二つ目が社会文化サブシステムで、三つ目が、学校サブシステムです。これら三つのサブシステムは、おのおの「読者の育成」をするうえで違った機能を果たしています。

家族サブシステムは、主に「読む喜び」を育てる宿命を持ち、研究でわかったのは、「読者の育成」（ゼロ歳から前思春期まで）に最大の影響力を持つということです。即ち、耳から入る言葉が、この時期に不可欠であるということなのです。子どもと両親との情緒的な繋がりが、「本と読者の関係」の基になります。ことに個人的蔵書を促すことと、あらゆる本が家庭で読むことのできる家族の育成です。

家族サブシステム（娯楽のための読書）

- ゼロ歳児からの読者形成に、最も影響を及ぼすのが家庭。
- 耳から入る言葉は、この時期の子どもには不可欠。
- 声は、子どもと親を情緒的に繋ぐ仲介物であり、声を通しての親子の触れ合いは読者を育てる土壌になっている。
- 個人蔵書は、自身の文学的批判力を養うのに不可欠で、蔵書に加える本はその家族固有の価値観を広げるような本が望ましい。特にそのような価値観をまだ持たない家族の場合はなおさらである。

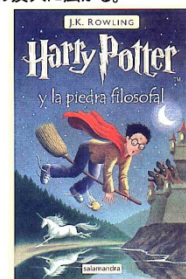
最新の研究によると、家族は最良のかつ最もパワフルな読書推進に影響を及ぼす環境です。皆さんが子ども向けの本を選ぶとき、この要素は大事です。しかも、今日お集まりの皆さんは正しい選択のためにきちんと養成されている人たちです。

思春期では、一つ目の家族サブシステムが二つ目の社会文化サブシステムの友人関係で置換されます。この時期に読書を促す最善策は、口から耳への情報を使うこと。つまりクチコミです。家族のサブシステム、学校サブシステムからも離脱した本があります。最も有名な魔法使いの家族であるハリー・ポッターをあげることができます。つまりハリー・ポッターがスペインで読まれた理由、買われた理由は、社会文化の役割をクチコミという形式で青少年たちが果たしていったからです。

教育サブシステムのねらいは、「書かれた文章の判読」です。明白な教育目的で行う「読みながら学ばせる」のと同じく重要です。さ

続き

- 思春期には、家族より友人が大事。社会的な繋がりがクチコミによって一冊の本が少年から別の友人に広がる。その次の友人に、また口ついで広まっていった結果、ベストセラーになったのがハリー・ポッター。
- 家族環境より、学校環境よりも社会文化環境のほうが強いと言える一例



らに文学の読み手も育てる必要があるので、余りにも多く「読む楽しさ」を犠牲にした読書に走りがちです。家族サブシステムが、その読者の育成機能を果たせないとき、少年少女の一人たりとも「読む喜び」を放棄しないためには、学校サブシステムが家族機能を代用するべきなのです。

皆さんの中でどれくらいの方が、幼児期から母親か父親に、あるいは祖父母にお話を読み聞かされたりしたことがあるでしょうか。

そうしてもらったことのある人は、手をあげていただけますか？日本には、家族の口伝えによるお話の伝統がまだ生きています。スペインやカタルーニャでは、こうした体験は教育側に委ねられつつあります。

二番目の社会文化サブシステムは、読み手の生涯にわたる読書推進を目標にするべきです。

つまり環境や文化に囲まれた個々人の暮らしの一要素として「読書」をとらえていくのです。このサブシステムの中に、最近ではソーシャルネットが現れてきました。しかし、とりわけ思春期の読書では、読み手をいざなう現実的なちからは、友人関係において発揮されています。この読書推進は、最も身近なところから世界レベルまで広げるべきなのです。その結果、Canon（規範）を選ぶにあたっては、寓話から、ウォルトディズニーのお話の領域まで視野に入れておくべきです。

学校教育サブシステム（義務的な読書）

教える責任がある

- 読むことを学習する
- 学ぶために読む
- 文学的読者の育成

● 娯楽のための読書の補いとして

- 家庭環境が機能しないとき、学校環境が読書を促すよう努めねばならない

社会文化サブシステム（共同体の中の読書）

養成するのは

- 図書館とその専門家
- 書店
- メディア
- ソーシャルネット: Whatsapp, Twiter, Instagram, Booktubers...
- 交友関係

どこから始めるか

- 地域の文化（住んでいる村、地域）
- 地方の文化（方言を話す国、国家、etc.）
- 世界の文化（インソップから ディズニーまで）

3. 収集（指標）

収集、あるいは、いかに読書の規範を構想すべきかについて

選択の基準は次のようになります。

- ・ 文学的質の高さ
- ・ 個々の本の教育的な価値
- ・ 個々の子どもの読者嗜好
- ・ 自分のレベルが、文学を学ぶ里程のどの辺にあるのか
- ・ ローカルな規範と普遍的規範に照らす

読み手には、価値・文化・伝統・個々の環境に合った規範を浮き彫りにします。ゴールは、自分で価値判断できる読者の育成。「読書」＝個人的選択です。

規範を選ぶにあたり頭に描くべき「新たな読者」像とは、次のようになります。

- ・ 新たなテーマを持つ読者
- ・ 文字テキストに限定されない新たな形式
- ・ 本という「もの」に頼らない。

- ・読者自身の批判基準で選書できるよう。

(Canon) 選書の指標

バルセロナ自治大学 テレサ・コロメール教授の指標

- * 文学的な質
- * 教育的な価値 (文化、伝統、読書...)
- * こどもや若い人が読んでみての手ごたえ 味わい
- * 読書レベルのどの辺を歩んでいるのか

三つのサブシステムは選書に影響を持つ

- 影響力の大きさは、読者とその暮らしの関わりによる
 - 日本では、こどもの読書の見守りをする役目は母親にある
 - ヨーロッパでは、こどもの読書に関する責任は教育者側にある

読者は影響を受けている

- 家族
- 学校、高校
- 文化や社会的環境
- メディアの影響
- 図書館
- ソーシャルネット
- ...

より批判的に読める人

本質的な批判眼を持つ読者に育てるのが目標

下の4点から収集を始める

- 価値
- 文化
- 伝統
- 社会・家庭的環境

読書 という個人的な選択

新たな読者の要望

- 新しいテーマ: 社会的約束、心理的問題 etc.
- 新たなサポート: デジタル、ビデオゲーム、ソーシャルネット etc.
- 新たな文化消費財: 本は神話的なものではない。読書は莫大な消費の一部を担う音楽、映画、ファッション
- 新たな読者は知を自分のものにしたがっているし、それができると思っている。

新たなテーマ 難民 独裁 孤独



読み手に合った読書となるように

- 読む気にさせる作戦。読む喜びを広げてあげる。仲介者は、個々の読者のニーズに応えるべきである
- 読む幅を広げる作戦、その人の文化に繋げていく
- 彼(女)らの習慣的文化である音楽、流行と共通する読書になるようにすべきである
- グループのアイデンティティーの発露であるべき読書
- 君が読むから、あなたたちになりたいから僕も読むという動機もありなのだ!
- 社会の成員になる証としての読書

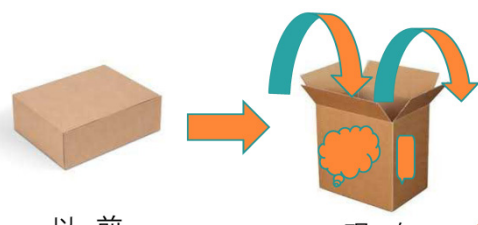
新たなテーマとは次のようなものです。

- ・ 憎悪、独裁、難民受け入れ、専制主義、孤独、自殺。

イラスト・アルバム (絵本) 形式だと、現代的テーマを扱う限界がありません。新たな読者に新たなテーマを勇敢に提案します。そこで私たちは次のようにして新たな読者にアプローチします。

- ・ 目標を変えるべきである。
- ・ 読み手の好みによって選ぶべき。
- ・ グループでの作業を用いて「読む」ことを励ます。

新しい図書館とは



以前 現在

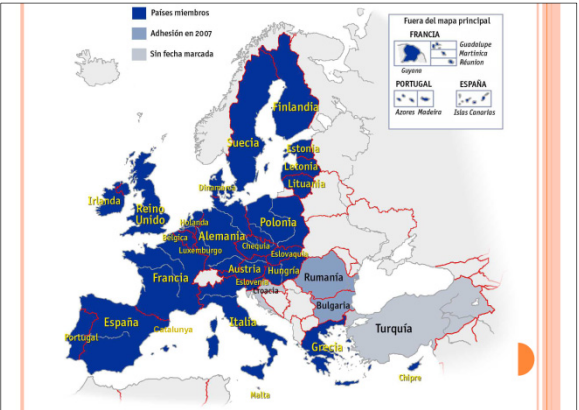
- ・文化的アイデンティティーの発露たる読書を視野にいれる。
 - ・私も君のようになりたい。私は君たちの仲間になりたい。だから読むのだ。
- どうやって実現させるか？「図書館」の例を挙げてみます。もはや単なる本のシェルターではありません。人間の根を張るべき方向を確信できる図書館。
- 社会化できる場所。読めて、相談できて、創造できる場所。

新しい図書館像



新たな読者は、
分ち合えたり、読んだり、相談したり、創造したり
結局
社会化できる場所が求められている



ボーナス・トラックとして総合データを付け加えます。日本、フランスの読書習慣、スペイン・カタルーニャのデータです。



一般的なデータ

国	国旗	人口	面積	人口密度
日本		127,180,000	377,873 km ²	338 人./km ²
EU		499,700,000	4,324,782 km ²	115 人./km ²
フランス		65,844,000	551,500 km ²	119 人./km ²
スペイン (カタルーニャも)		46,609,700	505,992 km ²	92 人./km ²
カタルーニャ		7,441,000	32,108 km ²	231 人./km ²

読書傾向

国	読者の割合	住民に対する読者の人数	週に何時間読むか	その他のデータ	共通する点
日本	93%	118,1000人	4,1時間/週	平均年間47冊、70,000タイトル 新刊発行	本の定価制
フランス	85%	55,9000人	6,9時間/週	青少年児童向けの 12%は邦訳から	
スペイン	65,8%	30,9000人	5,48時間/週	80,180(中南米) 新刊	
カタルーニャ	67,8% 15歳以下の読者数	5,04000人	-	7919タイトル 児童青少年向け 前年より5%増	
E U	68%	339000人	-		

ブログ JOAN PORTELL RIFÀ

- Llibres al Replà: <http://llibresalrepla.blogspot.jp/>
- Dos dits de front: <http://dosditsdefront.cat/>

参考図書

- *La revue des livres pour enfants*. 児童向け書籍の刊行物 La joie par les livres. Paris (年四回)(フランス語)
- *Cuadernos de Literatura Infantil y Juvenil* (月刊)(カステイリャ語)
- *Faristol*. Consell Català del Llibre per a Infants i Joves (月刊)(カステイリャ語)
- *L'illa*. Edicions Bromera (quarterly publication) (カステイリャ語)
- *Beinola*. Galtzagorri Elkarte (バスク語)
- *Peonza*. Santander (カンタブリア州 カステイリャ語)

インターネット

- GRETEL. バルセロナ自治大学.
<http://www.gretel.cat/>
- Consell Català del Llibre per a Infants i Joves: www.cclij.org/faristol. 国際児童図書評議会 (IBBY)カタルーニャ支部
- OEPLI.: www.oepli.org
- スペイン児童青少年図書団体:
www.uclm.es/cepli/
- Bienvenue sur le site Ricochet :
www.ricochet-jeunes.org
- ANILIJ. スペイン児童青少年文学研究会:
www.uvigo.es/anilij

インターネット

- Xarxa telemàtica educativa de Catalunya.
www.xtec.es o www.xtec.es/recursos/lit_inf/index.htm.
- Cavall Fort: www.edu365.com/vadellibres o www.cavallfort.net/
- Babar. 児童青少年文学雑誌: www.revistababar.com/
- Xarxa de Biblioteques de la Diputació de Barcelona: www.diba.es/chilias
- Fundación Germán Sánchez Ruipérez:
www.fundaciongsr.es, Sol-e.
- 児童青少年読書オリエンテーションサービス: www.sol-e.com

ご清聴ありがとうございました

